

# imoto ナース通信

2017年10月  
第3号

## 遠隔地と大学の効率的なやり取りを可能にする ICTの活用についての取り組み



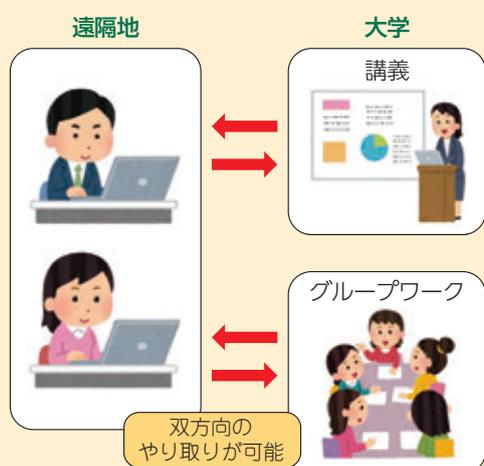
本プログラムでは、リカレント教育や学士課程教育、看護研究においてICTを活用した取り組みを行っています。本号では、ICT活用のこれまでの取り組みについて紹介します。

ICT(Information and Communication Technology)とは、情報通信技術と訳され、コンピューターやネットワークに関連する技術、設備、サービスの総称です。本プログラムでは、大学と遠隔地がリアルタイムでやり取りができるように、パソコン等の通信機器を使用したビデオ通話システムを活用しています。システムは、民間の汎用型のシステムを使用しており、インターネットに接続できる環境であれば誰でも無料で使用することができます。

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムにおいてICTを用いて講義を受講することが可能となっており、全科目の約7割でICTを使用して受講することができます。遠隔地の受講生は、講義を一方向的に受講するのではなく、グループワークなどの受講生同士がディスカッションする場面でも大学にいる場合と同じように講義に参加することができます。実際に、ICTでの受講が可能と設定した全ての講義においてICTでの受講希望があり、今年度のリカレント受講生のうち約8割はICTを活用して受講しています。ここまでICTを活用した受講の希望が多い理由として、遠方という距離を考慮することなく受講でき、通学時間の短縮、通学に伴う交通費の削減という利点があります。受講場所についても制限がありません。病院のご協力により、病院内でICTを活用して受講し、受講時間外は病棟で勤務するという受講生もいらっしゃいます。また、学士課程教育においても、リカレント教育と同様に遠方の実習における学生の指導等に活用しています。

8月には、ICT活用の取り組みについての報告会を開催しました。報告会の詳細な内容につきましては次頁の詳細記事をご参照ください。ICTでの受講に関して相談も受け付けております。当センターまでご連絡ください。

ICTチームリーダー 槌谷由美子 看護学科講師



【ICTの使用について】



【ICTを使用したグループワークの様子】



# ICT 活用報告会

## ～遠隔地における受講を可能にする ICT を 活用した双方向性のリカレント教育の実践～

本事業の大きな取り組みの一つとして、ICTを活用した事業を展開しており、外部の方々からの関心が多く寄せられております。これまでの取り組みの成果や課題を報告するとともに、模擬授業を行い、ICTを活用した授業の実際をご覧いただきました。また、今後の看護学教育におけるICT活用の展望や活用の方向性などについてのご講演をいただき、有識者・行政・小規模病院看護管理者を交えたディスカッションを行いました。



【事業報告】



【模擬授業】

パネルディスカッションの会場の参加者より、自施設ではICT活用のための環境や設備が整っておらず、職員の中でも普及していないので、ICT活用に高いハードルを感じている、との声がありました。

これに対し、パネリストの方々よりそれぞれのお立場から、使用する機材やネットワークトラブルへの対処等について助言がありました。



【明星大学教育学部准教授 今野 貴之 氏】



【小国町立病院看護部長 佐藤 三保 氏】



【山形県地域医療対策課看護師確保対策主査 衣袋 久士 氏】



【パネルディスカッションの様子】

## 地元で活躍する看護師



### 「看護を創造する地元ナース」

順仁堂遊佐病院 副院長兼看護部長  
認定看護管理者 信夫 松子

朝から緊張した面持ちで、中堅看護師Sさんが教育ブースのパソコンに向かっていました。いよいよブラッシュアップ研修が始まるのです。ICT(情報通信技術)を活用し、当院において山形県立保健医療大学の単元受講ができるようになりました。一昨年から「山形発・地元ナース養成プログラム事業」に参加させていただき、看護実践能力向上を目指した研修受講、看護研究の支援を受けています。今年度は大学との人事交流もあり、受講生の学びが人材育成に繋がるものと期待は膨らみます。当看護部は地域に暮らす人々が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域医療の担い手として福祉・介護と手を携えた最善の看護を目指しています。まさに地域に根差した「地元ナース」です。



私は小学生の頃、将来は無医村で働く保健婦になりたいとの夢を抱いていました。高校は奨学金制度がある新設の衛生看護科へ、卒後名古屋市立高等看護学院に進学しました。同期は既に准看護師として働いていたお姉さん達で、折々に社会人として大切なことを教えてもらい、誘われるまま名古屋市立城西病院に就職しました。その後、縁あって庄内人となり現在の順仁堂遊佐病院に入職、早や40年が過ぎようとしています。入職当時は急性期から慢性期まで、手術もあれば分娩もあり多忙を極める毎日でしたが、大切な命を守っていると使命感に燃えていました。言葉も文化も違う未知の世界は、不安よりもワクワクすることが多かったように思います。しかし、40代前半に総師長を拝命することになり、病棟看護ができない虚しさにさいなまれました。悶々としながら「看護管理」関連の書籍を読み漁り外部研修を受講する中で、「制度は与えられるものではない。自らつくるもの」との言葉に出会ったことでようやく吹っ切れました。知らないことは学ぶ、不足なところは創り出す、一歩踏み出そう。以来、地域を俯瞰し、訪問看護ステーションや地域医療連携室開設に関わり、教育体制の整備や働きやすい職場環境づくりに取り組み、看護管理の醍醐味を感じるようになりました。当院看護職の教育背景は実に多様ですが、学びたい時に学べる環境を作り、小規模病院の特長である機動力をフルに発揮して、ワーク・ライフ・バランスの充実に取り組んでいます。急速に少子超高齢化社会が進む中、多様性を受け容れる職場文化を築いていくのは看護管理者の役割です。今春からは疼痛緩和



内科・ペインクリニック外科が開設されました。看護師は集学的アプローチを目指すチームの一員として、看護の探求に余念がありません。

看護学生のみなさん、未来に向かって看護を創造する、ワクワクする瞬間が小規模病院にはあふれています。じっくり患者さんと関わるのもよし、地域のチームで患者さんの生活を支える一員になるのもよし。かけがいのない学生生活の中で主体的に学び、近い将来、看護職の仲間になっていただくことを願ってやみません。

## 学生討論会

### 「私たちが住みたいまちとは」～山形県川西町のまちづくり～

平成29年7月24日の「地元論」講義は、川西町役場未来創造課の方から2017年度から公立置賜総合病院周辺をメディカルタウンとする『生涯活躍のまち』構想に着手するとの説明を受け、学生がグループに分かれ、まちづくりについて検討を行いました。

これからのまちづくりには、次世代を担う当事者として若者世代の意見が欠かせません。実際のまちづくり計画に携わる行政の方とともに「住みたいまち」について考えることは、学生にとって地元を見つめ直すきっかけになったようでした。



【川西町の紹介】



【学生達のディスカッションの様子】



【発表の様子】



【意見交換の様子】

誰もが生きやすい、暮らしやすい、人生の最期を迎えたいと思うまち、こんなまちなら住みたいなど、学生の観点からたくさんの意見を発表しました。

\*こんな意見が出ました！

- ・大型の複合総合施設をつくり、買い物等、町民が生活しやすい環境をつくる。
- ・保育園や幼稚園・学校の設定、医療費無料など子供支援を充実させる。
- ・道路、電車等、バスなど交通の便を改善すること。
- ・大型の運動施設をつくり、駐車場には災害用の設備を設置する。
- ・看護学校を設立し、公立置賜総合病院と連携を図ることにより、看護師確保につながり、定住者も増えるのではないか。

### ● 編集後記 ●

今年の夏は雨の日が多く、夏らしい日が少なかったように思います。気が付けば、もう秋。大学の近隣で栽培していた里芋の収穫が終わり、山形の芋煮会フェスティバルの準備が着々と進んでいます。今年度のブラッシュアッププログラムも後半に入りました。皆様にとって、里芋に負けないくらい、コロコロに太った、実り豊かなプログラムになりますように。

編集・発行



山形県立保健医療大学  
看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳260番地  
TEL/FAX 023-686-6614  
<http://jimoto-nurse.jp/>  
[info@jimoto-nurse.jp](mailto:info@jimoto-nurse.jp)